



約90個のCPを持つコースは、65cm×60cmの巨大地図に印刷されている。ロゲイニング常連の岡部夫妻も、慎重にルートを検討する。

じっくりした話はできない。競技後交流会を設けることで、選手同士の横のつながりも生み出したい。それが競技の土壌を豊かにする。土曜日開催にはそんな願いも込められていた。

12時間のみでは敷居が高くなるので、6時間ロゲイニングも併設した。エントリー結果を見ると12時間の参加者は32組、6時間が35組以上だった。12時間というのはまだまだ敷居が高いということなのだろう。夕方までかかる12時間クラスを意識して、必須装備としてヘッドライトやサバイバルシート等のレスキューパックなどをプログラムに明示した。12時間のみとは特に書かなかったが、事前の装備チェックで12時間の参加者がほぼ完璧に必須装備の内容を持参していたのに対して、6時間ロゲイニングでは、それらを持参して来なかったチームも少なくなく、そもそもプログラムさえ読んでいないチームも散見された。自然の中に入る心構えとして、時間にかかわらず自分の身を守る装備を持つ必要性の啓発が必要だと感じた。



予報では雨だったが、スタート時には富士山も姿を現し、参加者を元気づけた

イベントは、12時間の部が7時30分、6時間の部が9時30分にスタートした。6時間の部では、いつもの朝霧ロゲイニングとは異なるエリアを訪れてほしいので、センターではなく、5kmほど白糸方面に下った田貫湖まで参加者をバスで送り、そこをスタートとした。このため、6時間クラスでは、帰り

広大な富士の裾野を190人が駆け巡る!

2012年6月2日(土) 静岡県富士宮市
富士山麓ロゲイニング

ES

6月2日、東大OLK大会が開かれていた週末、富士山麓ロゲイニングが開催された。会場は富士宮市の県立朝霧野外活動センター。毎年11月末の朝霧高原ロゲイニングは、本格的なナビゲーションが楽しめる数少ないロゲイニングイベントとして、毎年300名に達する参加者で人気を博している。

主催イベントの調整役である同センターの太田正義氏はナビゲーションスキルに関心が深く、また野外活動におけるその重要性を高く評価している。そのため同センターでは、野外活動指導者講習会の半分をナビゲーションや読図スキルに割いたり、ロゲイニングイベントを積極的に取り入れている。

最近では藤島由宇氏を講師に招き、クイック0の体験会なども実施している。今回の12時間ロゲイニングもその延長線の上に開催された。イベントの前夜、準備も終わって一息つく時間になると、太田氏がやってくる。「先生、

こんなイベントやれませんかねえ?」(太田氏は、かつての私の大学院での指導学生だった)新しいイベントは、いつもそんな夜の雑談から生まれる。

12時間でいったいどのくらいのエリアを回れるのだろうか。ほとんどデータがないなか、コース設定の僕と小泉はロマンを求めた。富士山西麓の広大な森林地帯から、急峻な天子山地、そして富士山信仰と源頼朝の巻き狩りの歴史的遺産の残る白糸-山宮地区まで、南北15km、東西13kmの広大なエリアが準備された。特に白糸-山宮地区は世界遺産登録の構成要素もいくつか含んでいる。センターからだいぶ下った田貫湖からですら遙か彼方に見える山宮の清掃工場の煙突を望むと、エリアの広大さに目が眩む。富士山の作った大自然と2000年の歴史がCP設定のメインコンセプトだ。

イベントは土曜日に設定された。日曜日に12時間の競技を行うと、帰りが厳しい。土曜日なら集合が厳しいのを我慢すれば翌日はゆっくり休むことができる。何より競技後選手同士での交流の時間を持って欲しいというのが主催者の願いであった。オリエンテーリングでもそうだが、普段大会で顔を合わせ、話をする仲でも、大会会場では

の時間の読みがうまくゆかず、1/3 程度のチームが遅刻してしまったが、競技自体は多様な自然と歴史的遺産を楽しんでもらえたようだ。ただ、今回 12 時間の広範囲のため、SI とフラッグを設置するポイントと、写真撮影によるポイントを設けたが、センター周辺の多くは写真撮影ポイントだった。そのため SI をほとんど使わないチームが多かった。もっと SI を使いたかったという声は、同時にフラッグを見つけるおもしろさを感じてくれた証なのかもしれない。



急峻な天子山地の裾野を走る参加チーム。スタート後 2 時間程度なので、まだまだ元気がある。

12 時間クラスでも大きな遅刻が 2 チーム出た。最後に残ったのが「チーム遠足」の渡辺・大沢組。制限時間から 20 分過ぎても帰ってこない。他のチームなら心配になるところだが、「このチームなら何があっても、自力で戻ってくるし、そうでなければ連絡があるはず」と思っていたら、その約 10 分後、両脚がつって歩くのも痛々しい渡辺さんと、膝を岩にぶつけて 2cm ほどの裂傷を負いながらも自分で止血して競技を続けた大沢さんがゴールに現れた。大きなケガはこの一件だけだが、そのほかに軽傷による歩行不能で、エイドの車が回収したチームが 1 チームあった。

優勝は男子がチーム秀善(山下・大原組)。2 週間前の富士山一周トレイルランニングを完走している静岡の強者チームだが、その疲れをものともせず高い得点を稼いだ。また最後はふらふらになり遅刻し 350 点の減点ながらも、TEAM 阿闍梨の田島・伊藤組が優勝した。混合は、シナネンニューバランスバイシクルチームが男子組の中でも 3 位という高得点で優勝した。



夜の交流会では、プランナーの小泉君の結婚披露パーティが行われ、多くの参加者からの祝福を受けた。二人が持っているのは、会場である朝霧野外活動センターから送られた二人の似顔絵入りケーキ。

その日の夜は、交流会。参加者の 1/3 以上を越える 70 名以上の参加があり、表彰式後、上位チームの戦略を聞いたり、交流を深めた。交流会ではプランナーである小泉君の結婚披露パーティも行われた。小泉君は、朝霧野外活動センターでのイベント準備のためにこのセンターを訪れている時、別のイベントのボランティアとして来ていた香楠(かな)さんと知り合い、この 2 月に結婚した。披露パーティーでは、二人の出会いの場となった同センターのスタッフから祝福とお祝いの似顔絵付きケーキを贈られた。

宿泊滞在する参加者のため、翌日は



翌日行われた講習会で取り入れられたクイック O の練習。朝霧野外活動センターでは、半常設コースを設置し、学校団体などへの利用を促進すると同時に、クイック O からロゲイニングまで、ナビゲーションの総合センターを目指している。

無料の読図講習会も実施された。無料の講習だからこちらも気が楽で、新しい説明の仕方や講習内容を試してみるいいチャンスとなった。約 15 名が参加したが、みな熱心に受講してくれた。特に最後に行った地図の整置練習としてのクイック O では、前日の疲れにも関わらず参加者からセンタースタッフに至るまで大いにエキサイトした。朝霧野外活動センターでは、写真のような日本初(?)となる、クイック O の半常設コースも設置されている。

(村越 真)